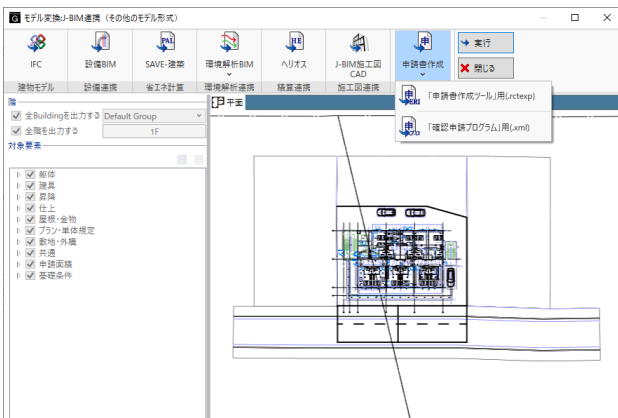


連携資料

[確認申請書作成 ソフトウェア連携]

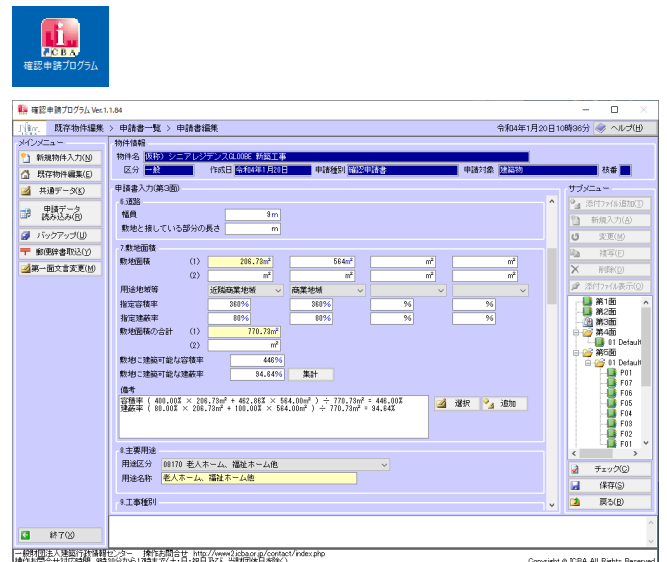


1 申請書作成ツールへの連携 ____ 2

- 1-1 連携ファイルの出力 _____ 2
- 1-2 連携ファイルの読み込み・編集 _____ 3

2 GLOOBE から連動する情報 ____ 7

3 申請提出後、 内容に変更があった場合 ____ 14



1 申請書作成ツールへの連携

日本 ERI 株式会社の建築確認申請書作成ツール、または、一般財団法人建築行政情報センターの確認申請プログラム（申請プロ）に、GLOOBE のモデルから計算した階数や床面積、建蔽率などの建物情報を出力して、確認申請書を作成することができます。

ここでは、日本 ERI 株式会社の建築確認申請書作成ツールを例に、GLOOBE から連携ファイルの出力と申請書作成ツールでの読み込みについて確認しておきましょう。

1-1 連携ファイルの出力

GLOOBE でモデルデータを開き、申請書作成ツール用の連携ファイル（.rctexp）を出力しましょう。

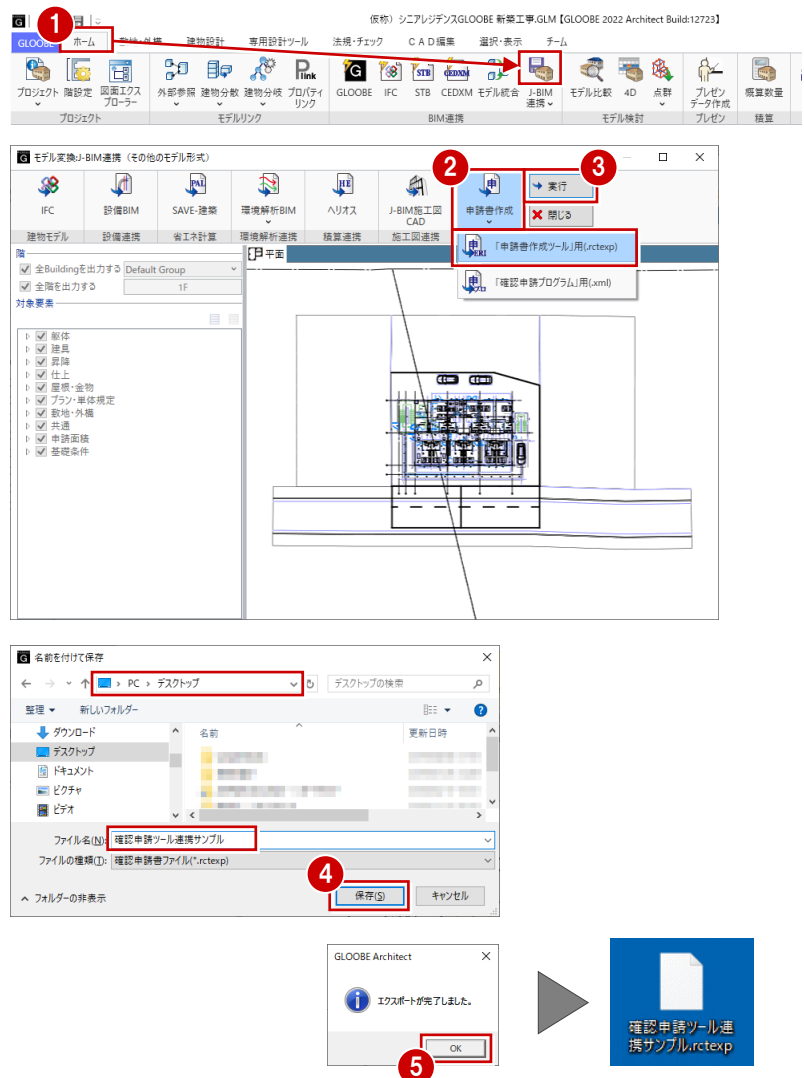
① GLOOBE の「ホーム」タブをクリックして、「J-BIM 連携」を選びます。

② 「申請書作成」メニューから「申請書作成ツール」用（.rctexp）」を選びます。

③ 「実行」をクリックします。

④ 出力先のフォルダを確認し、ファイル名を入力して「保存」をクリックします。

⑤ 確認画面で「OK」をクリックします。連携ファイルが出力されます。

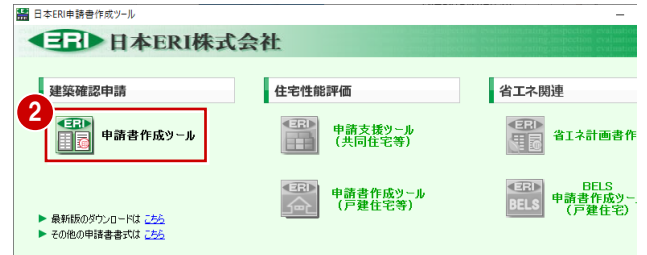


1-2 連携ファイルの読み込み・編集

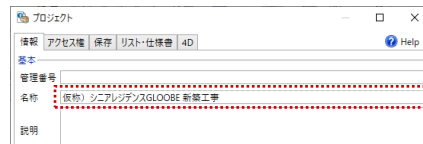
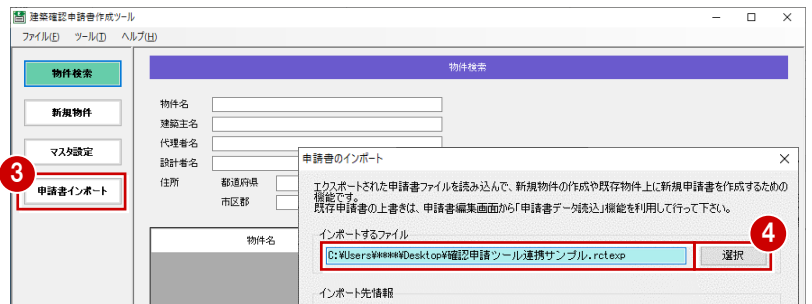
日本 ERI 株式会社の確認申請書作成ツールを開いて、連携ファイル (.rctexp) を読み込み、申請書を編集しましょう。

連携ファイルを読み込む

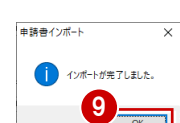
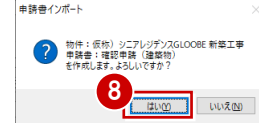
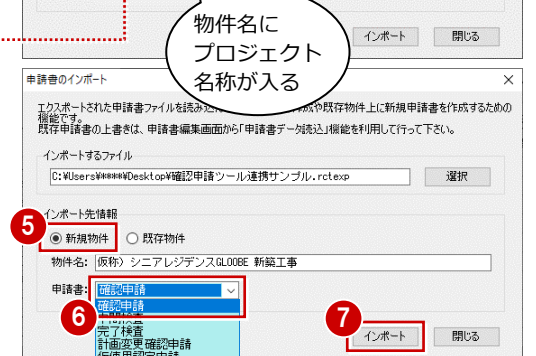
- 1 デスクトップ上の「日本 ERI 申請書作成ツール」のアイコンをダブルクリックします。
- 2 メニューから「建築確認申請」の「申請書作成ツール」をクリックします。



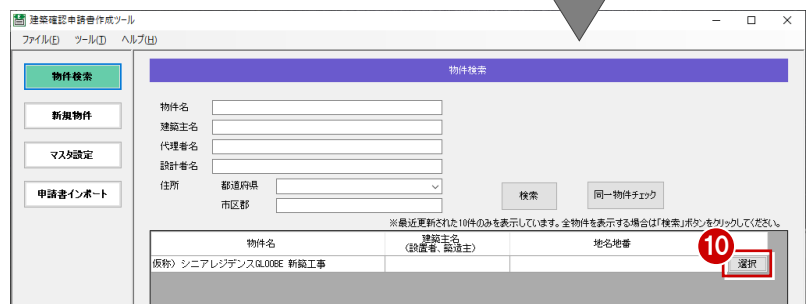
- 3 「申請書インポート」をクリックします。
- 4 「選択」をクリックして、GLOBE から出力した連携ファイルを指定します。「物件名」にプロジェクトの名称が入ります。



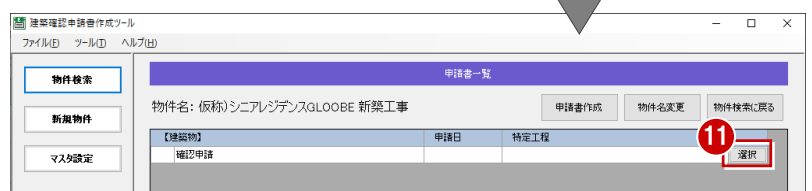
- 5 「新規物件」をクリックします。
- 6 「申請書」で「確認申請」を選びます。
- 7 「インポート」をクリックします。
- 8 確認画面で「はい」をクリックします。
- 9 完了の確認画面で「OK」をクリックします。物件一覧に追加されます。



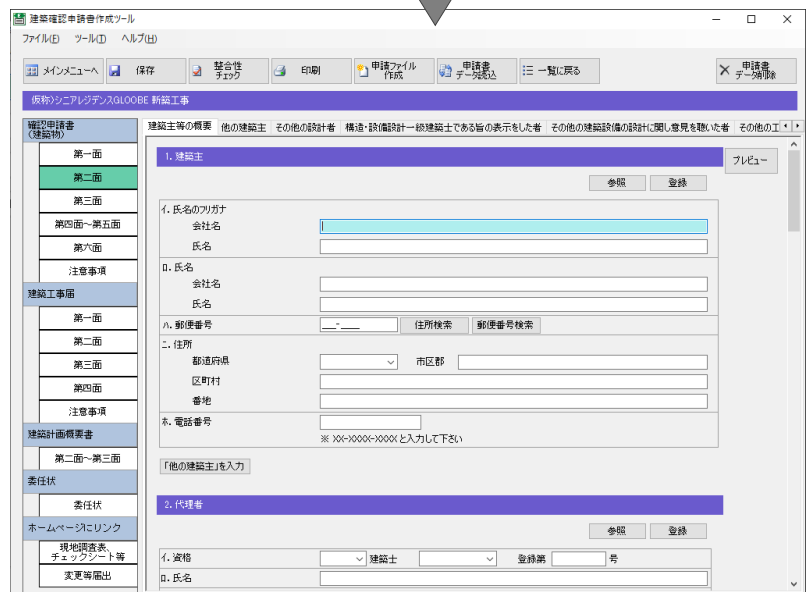
- 10 申請書を作成する物件の「選択」をクリックします。その物件の申請書一覧が表示されます。



- 11 確認・編集する申請書の「選択」をクリックします。申請書の編集画面が開きます。



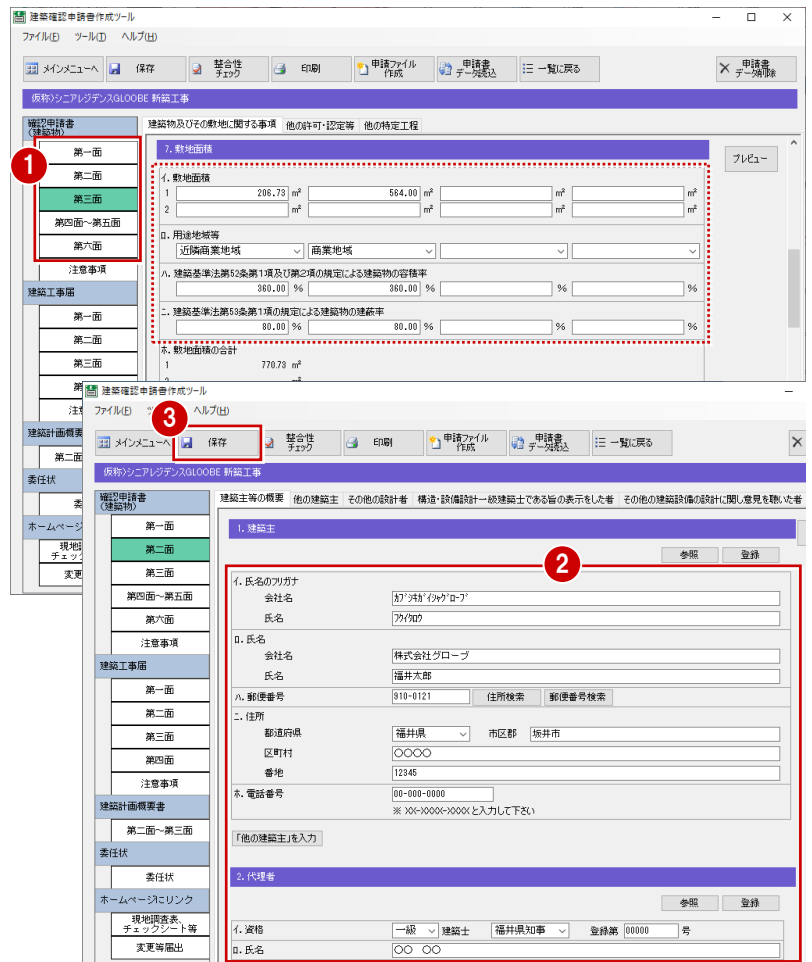
1 申請書作成ツールへの連携



申請書を編集する

- 1 確認申請書の面を切り替えて、GLOOBE から連動した情報を確認します。

⇒ 詳しくは 2 章を参照

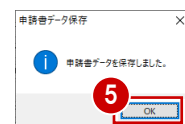
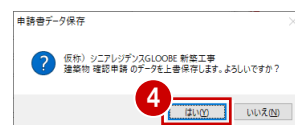


- 2 申請書作成ツールの操作に従って、その他の項目を入力します。

- 3 申請書の編集が終了したら、「保存」をクリックします。

- 4 確認画面で「はい」をクリックします。

- 5 完了の確認画面で「OK」をクリックします。

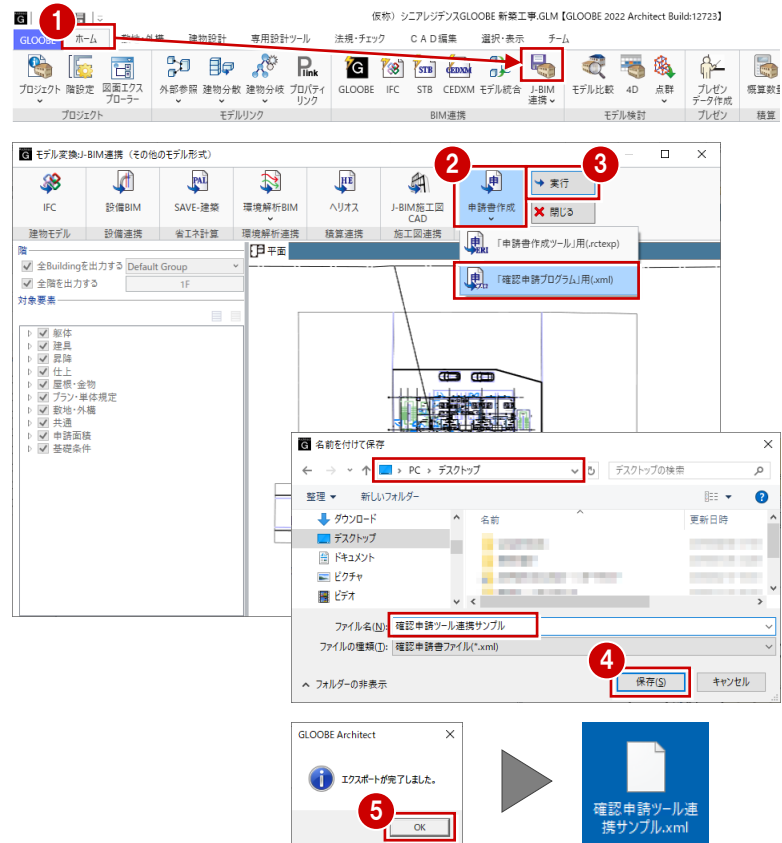


補足 確認申請プログラム（申プロ）の場合

一般財団法人建築行政情報センターの確認申請プログラム（申プロ）へ連携する場合は、次のように操作します。

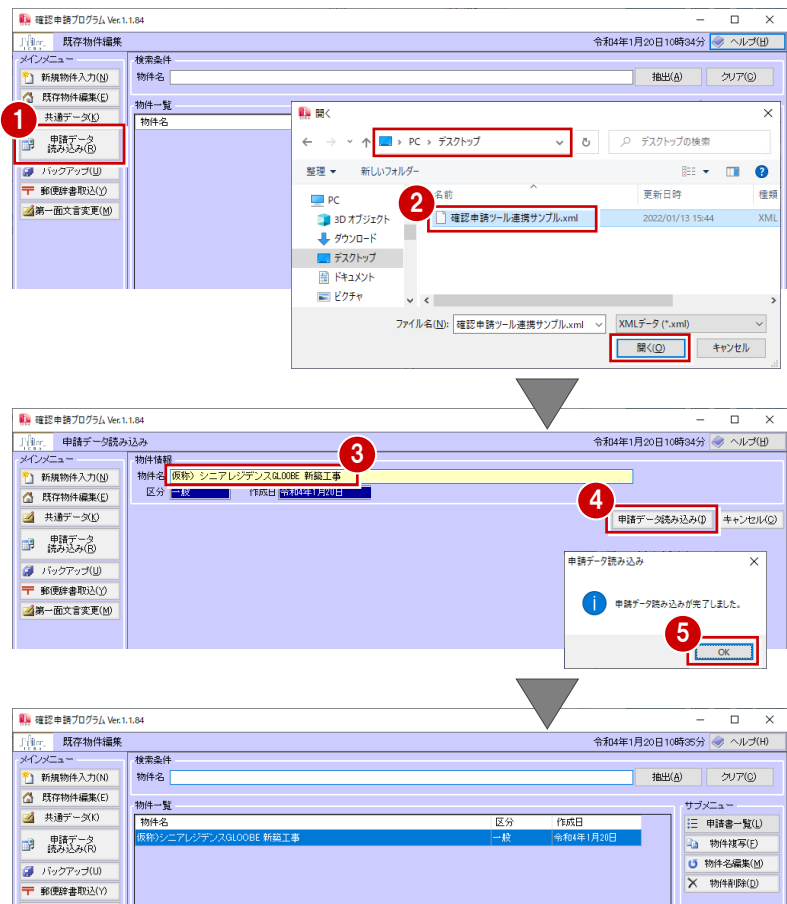
連携ファイルを出力する

- 1 GLOBEの「ホーム」タブをクリックして、「J-BIM連携」を選びます。
- 2 「申請書作成」メニューから「確認申請プログラム」用（.xml）」を選びます。
- 3 「実行」をクリックします。
- 4 出力先のフォルダを確認し、ファイル名を入力して「保存」をクリックします。
- 5 確認画面で「OK」をクリックします。連携ファイルが出力されます。



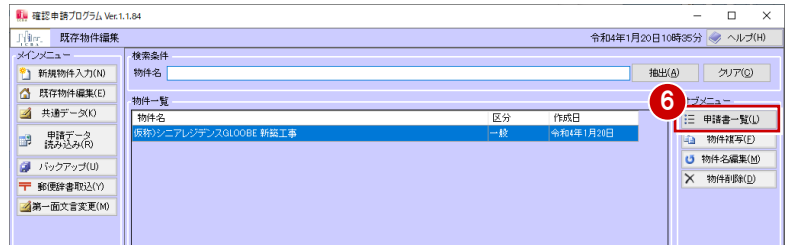
連携ファイルを読み込む

- 1 確認申請プログラム（申プロ）の「申請データ読み込み」をクリックします。
- 2 GLOBEから出力した連携ファイルを選択して、「開く」をクリックします。
- 3 「物件名」にプロジェクトの名称を入力します。
- 4 「申請データ読み込み」をクリックします。
- 5 確認画面で「OK」をクリックします。物件一覧に追加されます。



1 申請書作成ツールへの連携

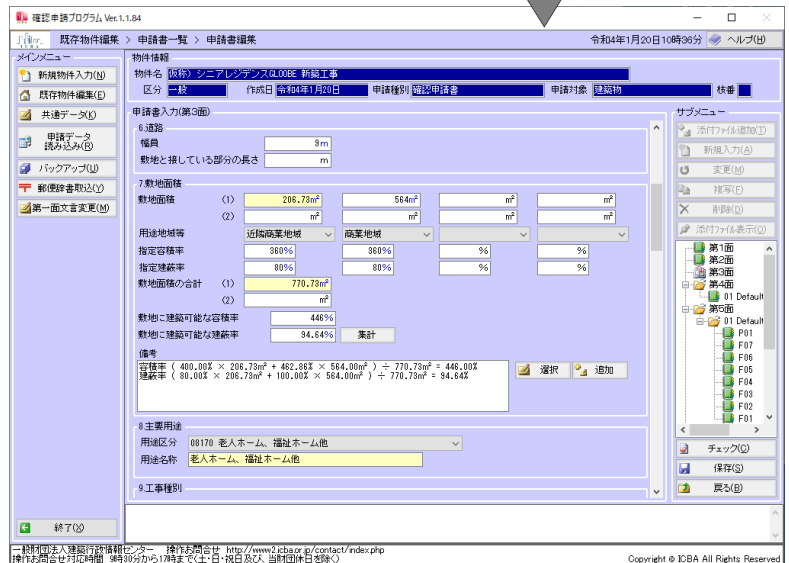
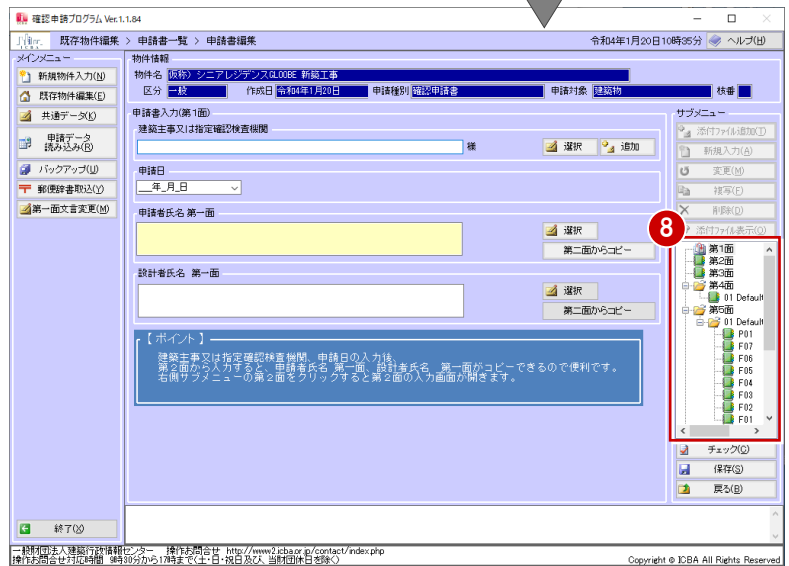
- ⑥ 物件を選択して、「申請書一覧」をクリックします。
その物件の申請書一覧が表示されます。



- ⑦ 「申請書編集」をクリックします。
申請書の編集画面が開きます。



- ⑧ ツリーから確認申請書の面を切り替えて、GLOBE から連動した情報を確認します。
また、申請書を編集します。



2

GLOOBE から連動する情報

ここでは、GLOOBE から確認申請書に連動する項目について解説します。

第二面

GLOOBE から rctexp ファイルを新規に出力したとき、「備考」欄にこのメッセージを書き込みます。既存の rctexp ファイルを更新した場合、最後の言葉は「出力されました」→「更新されました」になります。⇒ P.16

確認申請プログラム（申プロ）の場合

連携内容は、一部を除いて日本 ERI 株式会社の建築確認申請書作成ツールと同様です。連携内容が異なる部分のみに注釈を付けています（以降の面も同じ）。

第三面

道路境界線の「2a 範囲計算・容積率緩和基準幅員」のうち最大のもが入ります。

用途地域のプロパティの値が入ります。敷地境界・地盤にかかる用途地域が複数ある場合は、それぞれの数値が入ります。前面道路幅員が 12m 未満の場合は、道路幅員制限による容積率上限と指定容積率あるいは任意入力容積率を比較して、小さい方の値が容積率として適用されます。

用途地域の「2a 範囲計算・容積率緩和基準幅員」の値が入ります。

用途地域の「容積率・建蔽率限度確認」の値が入ります。

用途地域の「容積率・建蔽率限度確認」の値が入ります。「へ」欄、「ト」欄には、用途地域が単一の場合は「容積率」「建蔽率」の値、用途地域が複数の場合は「敷地全体の限度」の値が入ります。

申請書作成ツールが自動的に計算・表示します。

「申請面積」の「敷地面積」で表示される面積が入ります。「容積率・建蔽率限度確認」の「対象敷地面積」も同じです。

用途地域が単一の場合

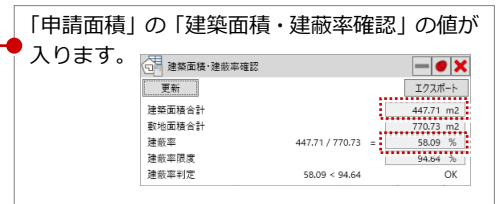
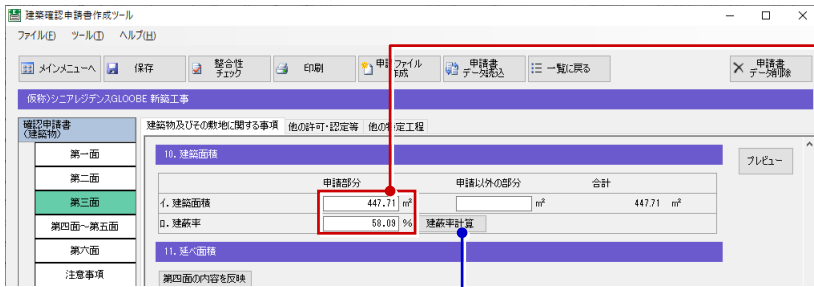
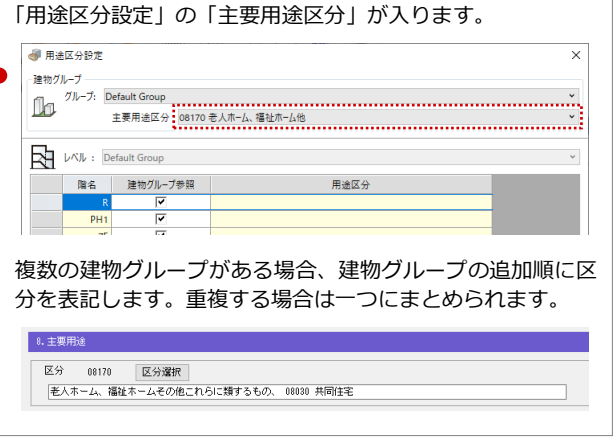
用途地域が複数の場合

建築基準法 52-8 の容積率緩和を適用する場合

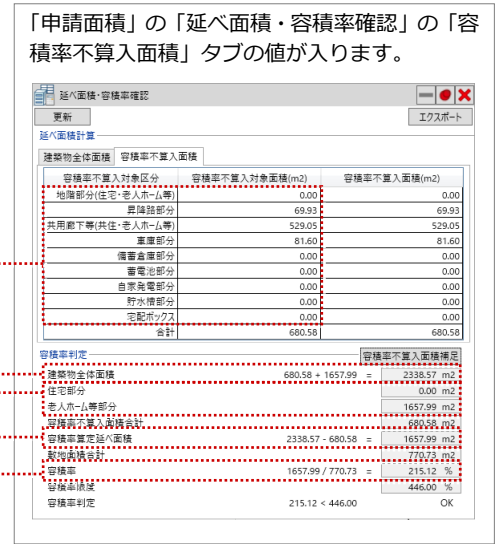
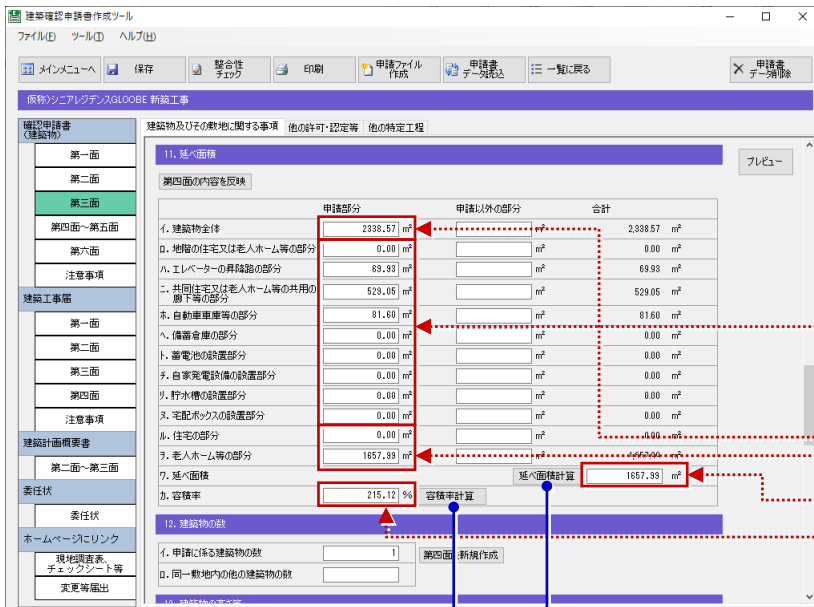
「容積率・建蔽率限度確認」で、「容積率緩和等適用」の「建築基準法 52-1-5~7, 52-8」を選択して任意容積率を入力し、前面道路幅員が 12m 未満の場合、道路幅員制限による容積率上限と任意入力容積率を比較して、小さい方の値が「ハ」欄に入ります。

「建築基準法 52-8」を適用したい場合、場合に応じて申請書作成ツールで「ハ」欄の値の修正が必要になります。道路幅員制限による容積率上限と指定容積率を比較して、小さい方の値を「ハ」欄に入力してください。

「ハ」欄の修正が必要



「建築率計算」をクリックすると建築率を再計算します。GLOOBE と申請書作成ツールでは扱う数値の丸めが異なるため、再計算すると違う値になることがあります。



「容積率計算」「延べ面積計算」をクリックすると容積率、延べ面積を再計算します。GLOOBE と申請書作成ツールでは扱う数値の丸めが異なるため、再計算すると違う値になることがあります。

2 GLOBBE から連動する情報

複数の建物グループがある場合は、建物グループの合計数になります。ただし、延べ面積が 10 m²以内の建物グループは除きます。

「申請面積」の「階数・高さ確認」の値が入ります。

地盤面高さが複数存在する場合は、選択した地盤面を基準とした値が連携します。

複数の建物グループがある場合は、それぞれの項目で最大の値になります。

GLOBBE の「オプション (CAD 環境)」にある「表記法設定」の「寸法」の「距離」の設定で丸めた値が連携します。ただし、申請書作成ツールでは m で小数桁 3 までの表記になります。

確認申請プログラム (申プロ) の場合

合計値も連携します。

「集計」で再計算すると、小数桁 2 で切り上げとなります。

第四面～第五面

複数の建物グループがある場合は、すべての建物グループが棟として出力されます。
ただし、延べ面積が 10 m² 以内の建物グループは出力されません。

「用途区分設定」の階の「用途区分」が入ります（5 つまで）。
「建物グループ参照」が ON のときは「主要用途区分」を参照します。

建物グループの名称です。

現状は、新築限定です。

※「用途区分設定」の階の「用途区分」では、「08060 住宅で事務所、店舗等を兼ねるもの」は設定できません。申請書に 08060 を記載したい場合は、申請書作成ツールで修正してください。

「申請面積」の「階数・高さ確認」の値が入ります。

「昇降機塔等の階の数」は、階算入しない（水平投影面積が建築面積の 1/8 以内の）PH 階の数としています。

GLOBE の「オプション (CAD 環境)」にある「表記法設定」の「寸法」の「距離」の設定で丸めた値が連携します。ただし、申請書作成ツールでは m で小数第 3 までの表記になります。

2 GLOOBE から連動する情報

「申請面積」の「延べ面積・容積率確認」の「建築物全体面積」タブの面積が入ります。

「申請以外の部分」がない場合は、0を入れます。「合計」のセルは、「申請以外の部分」のセルを編集すると自動的に数値が入ります。

階	階番号	統合階	階名	申請部分	申請以外の部分	合計
P1	1		PH1	49.00		
F7	7		7F	318.49		
F6	6		6F	318.49		
F5	5		5F	318.49		
F4	4		4F	318.49		
F3	3		3F	318.49		
F2	2		2F	302.50		
F1	1		1F	384.82		

「申請面積」の「延べ面積・容積率確認」の「建築物全体面積」タブの面積が入ります。

階	容積率不算入対象面積(m2)	容積率対象面積(m2)
F	0.00	0.00
PH1	24.50	24.50
7F	80.28	238.21
6F	80.28	238.21
5F	80.28	238.21
4F	80.28	238.21
3F	80.28	238.21
2F	34.49	268.01
1F	220.19	174.43
合計	680.58	1657.99

容積率判定

建築物全体面積: 680.58 + 1657.99 = 2338.57 m²

住宅部分: 0.00 m²

老人ホーム等部分: 1657.99 m²

容積率不算入面積合計: 680.58 m²

容積率算定延べ面積: 2338.57 - 680.58 = 1657.99 m²

敷地面積合計: 770.73 m²

容積率: 1657.99 / 770.73 = 215.12 %

容積率限度: 446.00 %

容積率判定: 215.12 < 446.00 OK

「階設定」の当該階の高さが入ります。

※ GLOOBE の「オプション (CAD 環境)」にある「表記法設定」の「寸法」の「距離」の設定で丸めた値が連携します。ただし、申請書作成ツールでは m で小数桁 3 までの表記になります。

階	階高	SL=F1高	梁天々高	ユーザレベル	参照階	方位	敷地番号
PH1	3000	30		設定なし	-		
7F	3050	30		設定なし	-		
6F	3050	30		設定なし	-		
5F	3050	30		設定なし	-		
4F	3050	30		設定なし	-		
3F	3050	30		設定なし	-		
2F	3500	30		設定なし	-		
1F	4300	50		設定なし	-		

用途別床面積

用途の区分	具体的な用途の名称	床面積
イ. 区分選択	08170 老人ホーム、福祉ホームその他これら...	318.49

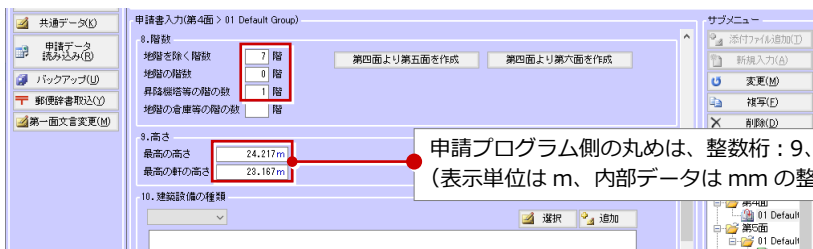
「申請面積」の「階・用途別床面積計算表確認」の「床面積対象」タブの値が入ります (6 つまで)。

用途区分	面積(m2)
08170 老人ホーム、福祉ホーム他	318.49

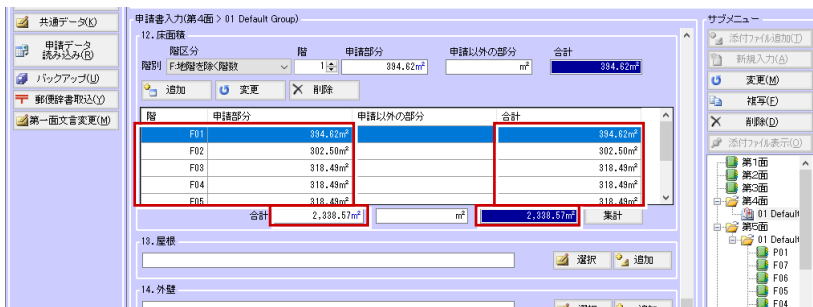
確認申請プログラム（申プロ）の場合



数に制限は無く、GLOOBE で設定したものがすべて連携します。



申請プログラム側の丸めは、整数桁：9、小数以下桁：0、単位 mm となっています。
(表示単位は m、内部データは mm の整数)



数に制限は無く、GLOOBE で設定したものがすべて連携します。



3 申請提出後、内容に変更があった場合

申請提出後に GLOOBE で変更があった場合は、再度、連携ファイルを出力します。

このとき、日本 ERI 株式会社の建築確認申請書作成ツールを使用している場合は、申請書作成ツールで編集した状態を連携ファイルへエクスポートして、GLOOBE から出力するときそのファイルを指定すると、編集した内容はそのまま残り、連動する項目のみ更新することができます。

申請書をエクスポートする

確認申請書作成ツールにて手入力編集した状態を、連携ファイル (.rctexp) へエクスポートします。

1 日本 ERI 申請書作成ツールのメニューから「建築確認申請」の「申請書作成ツール」をクリックします。

2 申請書をエクスポートする物件の「選択」をクリックします。
その物件の申請書一覧が表示されます。

3 「申請書エクスポート」をクリックします。

4 継続の確認画面で「はい」をクリックします。

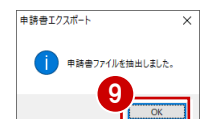
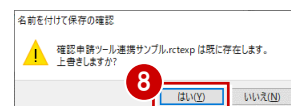
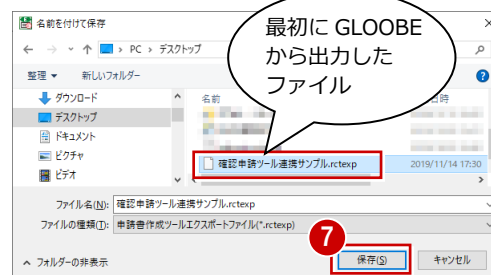
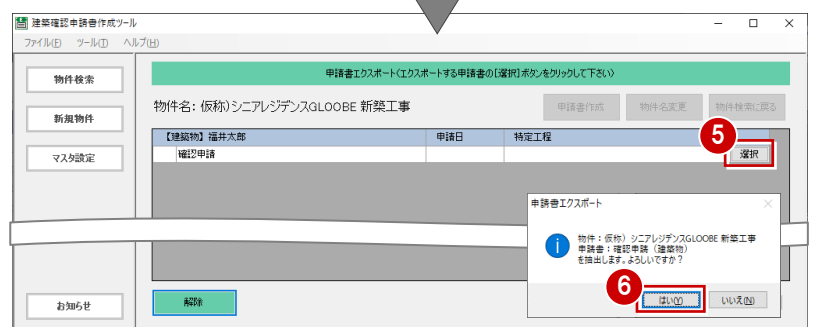
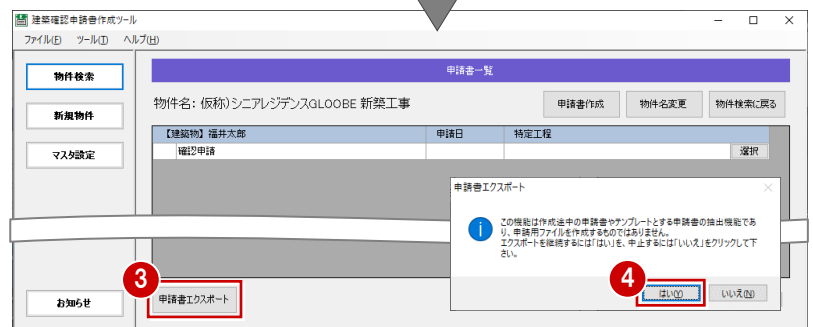
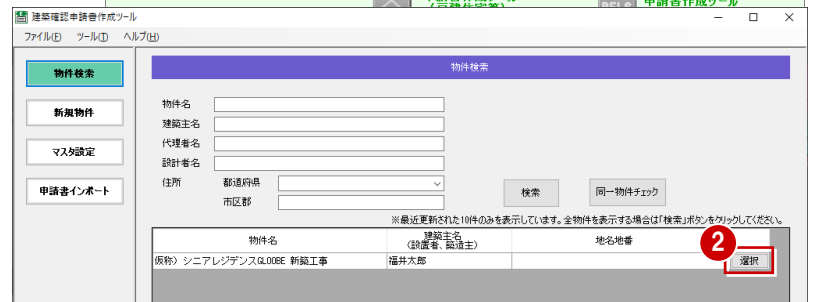
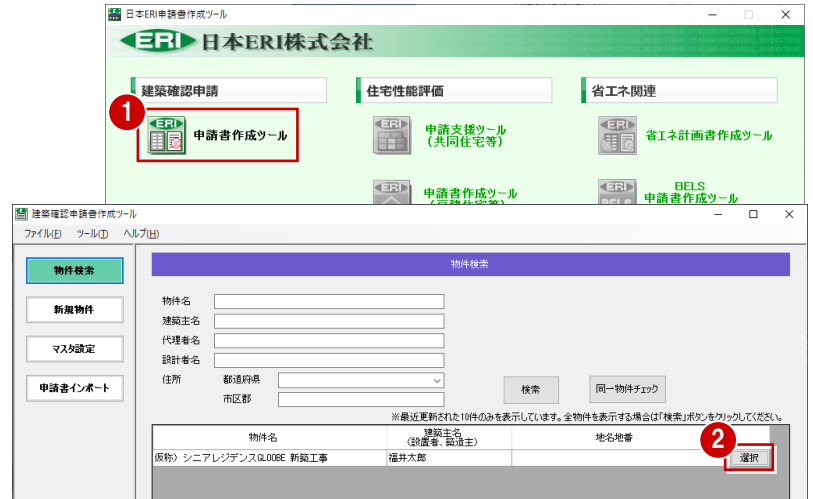
5 エクスポートする申請書の「選択」をクリックします。

6 開始の確認画面で「はい」をクリックします。

7 最初に GLOOBE から出力したファイルを指定して、「保存」をクリックします。

8 上書きの確認画面で「はい」をクリックします。

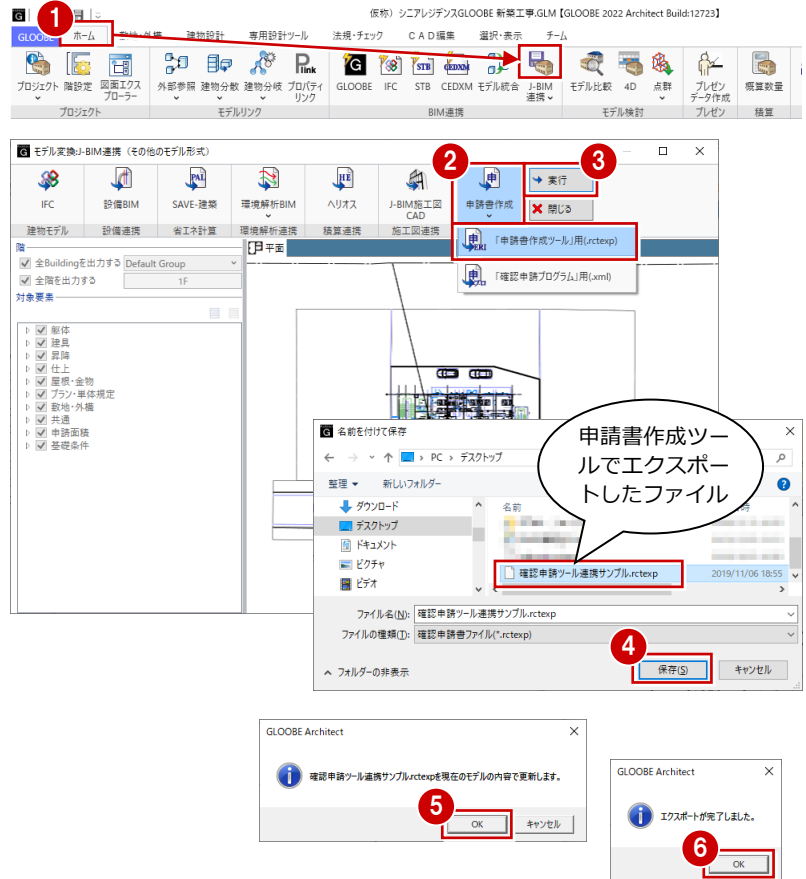
9 完了の確認画面で「OK」をクリックします。



連携ファイルを更新する

GLOOBE で設計変更したモデルデータを開き、連携ファイルを出力します。このとき、確認申請書作成ツールからエクスポートしたファイルに上書きで更新します。

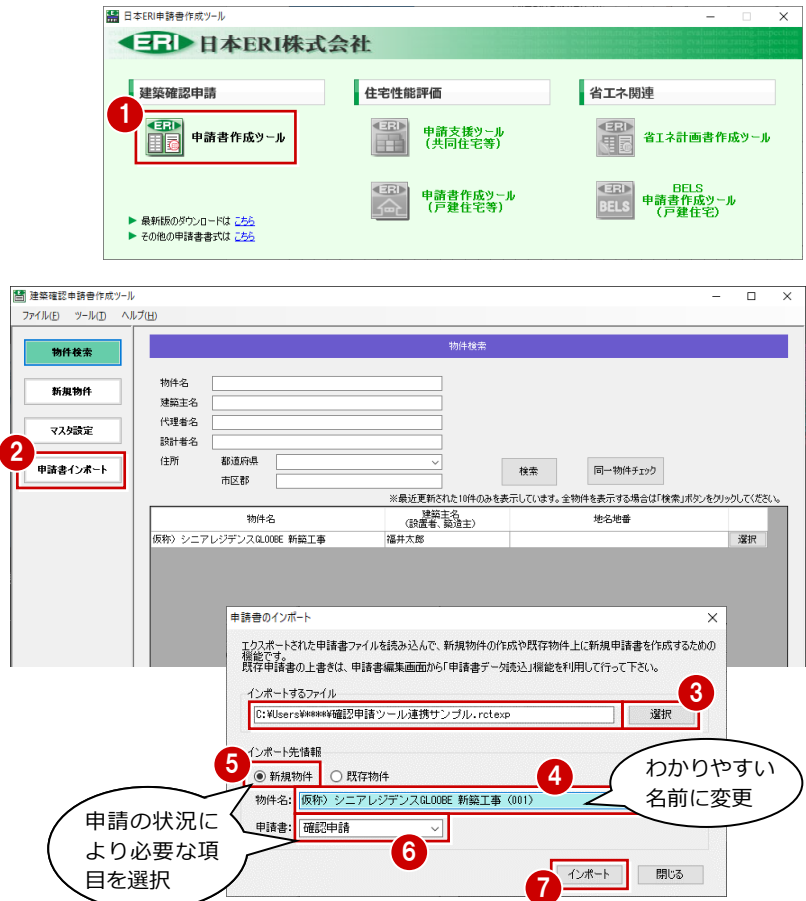
- 1 GLOOBE の「ホーム」タブをクリックして、「J-BIM 連携」を選びます。
- 2 「申請書作成」メニューから「申請書作成ツール」用 (.rctexp) を選びます。
- 3 「実行」をクリックします。
- 4 確認申請書作成ツールでエクスポートしたファイルを指定して、「保存」をクリックします。
- 5 更新の確認画面で「OK」をクリックします。
- 6 完了の確認画面で「OK」をクリックします。



連携ファイルを読み込む

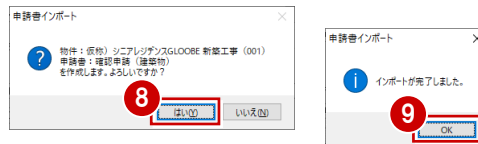
GLOOBE で更新した連携ファイルを、確認申請書作成ツールで読み込みます。

- 1 日本 ERI 申請書作成ツールのメニューから「建築確認申請」の「申請書作成ツール」をクリックします。
- 2 「申請書インポート」をクリックします。
- 3 「選択」をクリックして、GLOOBE から出力した連携ファイルを指定します。
- 4 「物件名」を確認・編集します。
- 5 6 申請の状況により必要な項目を選択してください。ここでは、「新規物件」「確認申請」で進めます。
- 7 「インポート」をクリックします。



3 申請提出後、内容に変更があった場合

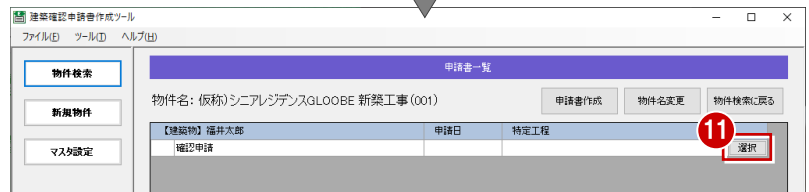
- 8 確認画面で「はい」をクリックします。
- 9 完了の確認画面で「OK」をクリックします。
物件一覧に追加されます。



- 10 申請書を作成する物件の「選択」をクリックします。
その物件の申請書一覧が表示されます。



- 11 確認・編集する申請書の「選択」をクリックします。
申請書の編集画面が開きます。



- 12 確認申請書の面を切り替えて確認します。
手入力で編集した内容はそのまま残り、連動する項目のみ更新されています。

